

第11回宇宙空間の安定的利用の確保に関する国際シンポジウム（NSPSシンポジウム）の開催について

- 趣旨：宇宙空間の安定的利用の確保に関する議論を深めるとともに、我が国の取組を国内外に発信。
- 日時・場所：令和7年2月27日（金）09:00～14:20、赤坂インターシティカンファレンス（対面/オンライン併用）
- プログラム
 - 開会挨拶：小野田宇宙政策担当大臣（ビデオ録画で登壇）
 - 基調講演：スコット・ペース米ジョージワシントン大学宇宙政策研究所長、カイ・ウーヴェ・シュローグル欧州宇宙機関政治課題特別顧問
 - 特別講演：アーティ・ホラマイニ国連宇宙部長
 - パネル1：Norm Development for the Safe and Sustainable Use of Outer Space – Assessing Progress, Fragmentation, and Pathways Forward
 - パネル2：Evolving Challenges and Responses in Space Security
 - ラップアップセッション：The Fire side chat- The Future of Stability in Outer Space
 - 閉会挨拶：風木宇宙開発戦略推進事務局長



小野田大臣開会挨拶



パネルの様子

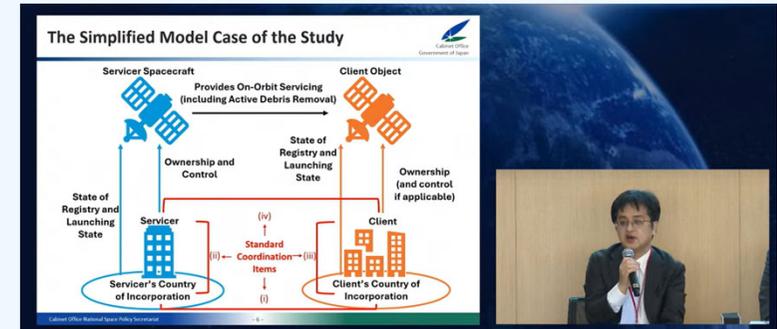
本シンポジウムの結果概要

宇宙空間の安定的利用を確保するための課題と、国際社会が取り組んでいくべき対応策について、国を越えて議論を行うことで、**国際的な共通理解を醸成**。

ホラマイニ国連宇宙部長は、日本のこの分野での取組みの先進性と国際的アウトリーチへの意欲を発言。

- パネル1 : Norm Development for the Safe and Sustainable Use of Outer Space – Assessing Progress, Fragmentation, and Pathways Forward

- 内閣府から樋口参事官が登壇し、青木教授の下で検討中の**CIOSの取組みや今後の国連での展開について発表**。
- 議論の中では、JAXA吉原氏や海外の有識者から、**JAXA等でのベストプラクティスを蓄積し、産業界とも連携を図り、規範を形成していくことの重要性が指摘**。



- パネル2 : Evolving Challenges and Responses in Space Security (地政学研究所梅田氏mod)
 - 防衛省から高橋参事官が登壇し、指針に至る問題意識や**ウクライナ戦争の教訓等について説明**。
 - 議論中、対ロシアを念頭に**即応打上げなど宇宙システムを「再構築」する能力の重要性**、中国がITUに相当数の衛星打上げを申請するなど、**通信やISR能力が飛躍的に向上する点への懸念**。
- ラップアップセッション: The Fire side chat- The Future of Stability in Outer Space

- 内閣府から風木局長が登壇し、日本では**危機管理投資や机上演習などを通じて脅威・リスクへの対応能力を高めている旨発表**。
- 宇宙分野でのサイバー対策やレジリエンスの重要性の指摘。
- 議論の中では、ITUやCOPUOSなどの場で**マルチの対話**を続けていくことの重要性が強調された。



【参考】小野田大臣による開会挨拶

内閣府 宇宙政策担当大臣の小野田紀美です。

本日は、「第11回宇宙空間の安定的利用の確保に関する国際シンポジウム」に御参加いただき、誠にありがとうございます。

開会にあたりまして、主催者を代表し、一言御挨拶申し上げます。

本シンポジウムは、宇宙空間の安定的利用を確保するための課題と、国際社会が取り組んでいくべき対応策について、関係各国が、政府、産業界、学界からの幅広い視点を持ち寄り、国を越えて議論を行うことで、国際的な共通理解を醸成すべく、2016年から毎年開催しています。

さて、近年、世界各国で宇宙空間の利用が拡大するなか、大規模な衛星コンステレーションやスペースデブリの増加により、地球周回軌道における物体同士の衝突リスクがますます上昇しています。

また、一部の国家では、自国の軍事的優位性を確保するために、他国の衛星を妨害・無力化する技術の開発を活発化するなど、宇宙空間における脅威・リスクが増大しています。

このような状況において、我が国では地球周回軌道上での衛星等の衝突防止、宇宙状況把握、デブリの抑制及び削減、軌道上サービスといった様々な分野において、技術開発とルール作りに関する実践的な取組を蓄積しています。

例えば、JAXAとアストロスケール社が連携して取り組んでいる商業デブリ除去実証「CRD2」では、2024年に実証衛星が打ち上げられ、極めて近い距離からのデブリの観測を成功させました。このプロジェクトは政府のガイドラインに基づき、安全性と透明性を確保したうえで進めております。

また、昨年2月には、内閣府において、人工衛星が、他の人工衛星やスペースデブリとの衝突を回避するための考え方や具体的な方策の一例を示した「人工衛星等との衝突防止に係るガイドライン」を策定しました。

そして、6月には、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）に私の前任の城内前大臣が出席し、我が国の取組を世界に向けて発信するとともに、国連におけるルールメイキングの議論に主導的に取り組んでいく方針を表明しました。

また、10月には、私（大臣）が、米国のクラツィオス科学技術政策局長との間で「技術繁栄ディールに関する協力覚書」に署名し、デブリの抑制・低減及び宇宙状況把握（SSA）に関する取組について日米間で連携していく旨明記しました。

これらを踏まえ、現在、我が国では有識者による検討会などで議論を重ねつつ、国際的な軌道上サービスの標準的な調整事項案などの具体化を進めています。今年の3月には私（大臣）が座長を務める「宇宙交通管理に関するタスクフォース大臣会合」を開催し、宇宙交通管理に関する我が国の方針を取りまとめ、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）など様々な場において、我が国の実践的な取組を、国際社会に発信していきたいと考えています。

宇宙安全保障を巡る取組についてもご紹介させていただきます。

我が国は、2022年12月に改定された「国家安全保障戦略」などに基づき、宇宙の安全保障上の課題と政策を具体化させるため、2023年6月に「宇宙安全保障構想」を策定しました。

また、昨年7月には、防衛省・自衛隊が、我が国の宇宙利用を確保するために必要な施策を明らかにするとともに、民間企業等の予見可能性を高め、技術開発を促進することを狙いとして、「宇宙領域防衛指針」を策定しました。

現在、我が国では、「国家安全保障戦略」などの改定に向けた検討を進めております。これを受けて「宇宙安全保障構想」も見直しを図り、我が国と価値観を共有する国々と共に、宇宙空間の安全かつ安定的利用と宇宙空間への自由なアクセスを維持すべく取り組んでいきたいと考えています。

最後となりますが、本日は、宇宙先進国のリーダーや有識者の皆様に、基調講演やパネリストとして御登壇をいただいております。

本日のシンポジウムを通じて、宇宙空間の安定的利用の確保に向けた議論がさらに深まり、この分野での産学官連携や国際連携が一層進むことを祈念いたします。ありがとうございました。